

# ウチダザリガニ

*Pacifastacus trawbridgii*

ザリガニ科



ウチダザリガニ。円内はザリガニの頭部

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ  
ウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原)  
鳥類  
樹林  
ワシ  
タカ

## 名前の由来

ウチダは、北海道の動物の研究者である内田亨氏にちなんでつけられたという(→興味深い話の項参照)。ザリガニは「砂利にいるカニ」か？ 漢字名：内田砂利蟹

## 特定種

外来生物法：特定外来種（下記「配慮事項」参照）

## 形態的特徴

体長20cmにもなる。体の色は茶色。頭の前（目と目の間）が細く尖っていて頭のとがりの根元に二つトゲがある。

類似種と見分け方：ザリガニ・アメリカザリガニ。

ウチダザリガニには頭のとがりの根元に2つトゲがあるが、ザリガニやアメリカザリガニのとがりにはトゲがない。

アメリカザリガニでは、はさみと頭部にゴツイトゲが多い。

## 生息環境・分布

水温の低い湖沼や大きな川で流れが遅くよどみがあり、底が泥や小石が重なっているようなところに生息する。

分布：国外分布は、アメリカ北西部。

国内分布は、北海道東部。北海道内では、東部に分布。

十勝地方では、十勝川水系流入河川、然別湖、帯広百年記念館に隣接している池など広く生息。

## 食性・他の生物との関わり

堆積した有機物から小動物まで摂食する雑食性。

ニホンザリガニへ深刻な伝染病を媒介すると思われる。

大型魚類・鳥類の餌となる。

## 繁殖生態・寿命

2才～3才で繁殖。1回に500粒程度の卵を産む。

## 興味深い話

■1930年、農林省がアメリカから輸入したザリガニを摩周湖に放したが、その後の生息が確認されていなかった。27年後の1957年、九州大の三宅先生のグループによって発見された。名前を付ける際に、北海道の動物について研究をしていた北大の内田亨先生にちなんで、ウチダザリガニと名付けたという。

■1926年～1930年に水産庁の優良水族導入の一環として摩周湖に導入された、とも言われる。

■本種はザリガニ類のペストといわれるミズカビ菌を保菌

していると思われ、ザリガニへの影響が危惧されている。

■摩周湖では1975年と1985年に1mと50cmのウチダザリガニの目撃情報がある。しかし標本・写真が無いため真偽のほどは不明である。真実ならば世界で一番大きくなる淡水ザリガニということになる。

■現在、急激に分布域を広げているが、飼育は意外にも難しく、飼育するには水質・水温に気を付ける必要がある。阿寒湖周辺では食材として活用されており、学校給食にも出される程である。食味はまあまあ美味である。

## 配慮事項

特定外来生物に指定されており、外来生物法によって、飼育・運搬・保管が原則禁止、輸入が原則禁止、野外へ放つ

ことが禁止、許可を得ていない人への譲渡・販売が禁止されている。駆除をしている例もある。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
確認できる時期				■									

## 参考文献

「北方林業Vol. 48 No. 4」 斎藤和範 1996

「旭川市博物館企画展冊子」1998

「日本動物大百科7 無脊椎動物」日高敏隆 平凡社 1997

「ニホンザリガニってどんな生き物(講演記録)」川井唯史、里川

づくり実行委員会(2007) <http://www.netbeet.ne.jp>

<http://kikuchi/zarigani/symposium2006/01.pdf>

「チョンの水槽部屋ーザリガニを飼ってみよう」のホームページ

<http://member.nifty.ne.jp/mshinjo/zari.html>